

①自己紹介

三原 ひろみ 三重県生まれ。



先天性白内障から10歳で緑内障になる。
生まれてすぐは見えなかったが、水晶体を取ることで、片目だけで0.1くらいの強制視力があつた。
その後、緑内障の悪化で現在は右目のみ、目の前の物がぼんやり見える程度で、
道路の白線や点字ブロックなどが何とか見える視力で、視野はほとんどない。
普段は白杖歩行で、慣れた場所は一人で、慣れていない場所は同じ視覚障害の夫やヘルパーと外出している。

小学校は地域の学校に行き、中学・高校と地元の盲学校に通っていた。
通学に電車利用が必要になり、何回か練習をして、一人で電車に乗ることができるようになった。
当時は最寄り駅は一人か二人は駅員がいた。
高校3年に、視力が急に落ちたが、視覚障害者の定番の職の理療に進むよりも、音楽の道に進みたいという思いから、
まずは点字楽譜などを勉強するために、東京の専門学校に進んだ。
その後、岡山の短大の音楽科、同4年制の大学に編入した。

大学4年の時に、岡山駅のホームで、向かい側に泊まっている電車が手前に止まっているように見え、
乗ろうと足を出したら、そのままホームの下に飛び降りてしまった。
自力でホームの上に飛び上がり、擦りむいた膝の手当を救護員にしてもらい、電車に乗った。
誰も私の転落に気付かず、救護員も驚いていた。
幸い電車も15分に1本の感覚で、けがも右足の薬指の第2関節の脱臼だけですんだ。
もし、完全に誰もいなかったら、私はどうなっただろうと、後からとても恐怖を感じた。
これを機に大阪で歩行訓練と職業訓練を受け、そのまま大阪に住んでいる。

②「無人駅」での困りごと

- ・無人駅でというより、視覚障害者の場合、改札や窓口に人がいるかどうかの判断ができない
 - 最近は透明のシートがあったり、カーテンが閉まっていたりして、声をかけても返事が聞こえないと人がいるかどうか分からない。
- ・誘導をお願いしたい時に人がいないとどうしていいか分からない。
 - インターホンの設置場所が統一されておらず、音声案内や点字ブロックの誘導もほとんどないので、探せない。
また、弱視の人にとっても目立たない色のことが多いので、インターホンと気付かない。
- ・券売機が鉄道会社によって違い、テンキーがないものは、視覚障害者にはほぼ使えない。
また、画面が節電などによって、暗くなっていて、画面の文字が見えず、弱視の人でも使えない場合も多くある。
- ・点字ブロックが誘導している券売機が節電や故障などで使えない。
- ・ICカードがちゃんとタッチできていない。
 - 特に障害者用のスルッと関西のICカードでタッチができていない状態が何回かあると、不正乗車の通知がきてしまう。
- ・初めて行く駅や、たまにしか行かない駅では、駅構内の構造などが分からない。また、駅構内が暗くなっている場合も多く、不安を感じる。
- ・どの電車に乗ればいいのかや、どのホームから乗るかなど聞きたい時
 - 最近、多言語の表示になったり、情報量が増えることで、電光表示の文字が小さくなり、弱視の人でも見えなくなっていることも多い。
- ・精算が必要な時
 - 目的地までの運賃が分からない時、とりあえず最低料金で切符を買うなどした時、精算の必要があるが、精算機には点字ブロックも誘導はされておらず、
タッチパネルなので、沿革で操作方法を伝えられても、視覚障害者は操作できない。
- ・大阪市の無料乗車証で乗り入れをした時、乗り越し生産が精算機では出来ない。
- ・降車後、目的地に行く道順を聞きたい時

③困りごとと解決のために望まれること

- ・無人であることや、無人になる時間帯などを音声で案内していただきたい。
- ・同時にインターホンの場所を伝える音声や点字ブロックの誘導もしていただきたい。また、インターホンは目立つ色であると、弱視の人にも探しやすい。
- ・タッチパネルのみの券売機は視覚障害者には使えないので、テンキーをつけ、音声で画面を読むようにしていただきたい。
可能な範囲で機種が統一されていると、使いやすい。
- ・画面は節電の観点であっても、文字がはっきりくっきり見える程度の明るさにしていただきたい。
- ・券売機を節電などで停止する場合は、点字ブロックが誘導されているところを避ける。もし、故障などで券売機が使えない場合は、ただフォローをするだけでなく、音声でも使えないことの案内があると、視覚障害者にも状況が分かる。
- ・駅構内の音声案内板が改札の外・中にあると分かりやすい。
→おおさかメトロ長堀鶴見緑地線にあるような案内板は、障害者だけでなく、一般の人も利用しているので、あるとよいと思います。
- ・精算機へも点字ブロックの誘導があるとよい。また、精算機にもテンキーなどで操作できるようになっていて、なおかつ遠隔でも操作してもらえるようになっているとよい。